

一七二〇番

我妹子わぎもこが 赤裳あかもひづちて 植うゑし田たを 刈かりて収をさ
めむ 倉無くらなしの浜はま

一七二一番

百伝ももつたふ 八十やその島廻しまみを 漕こぎ来くれど 粟あはの小島こしまは
見みれど飽あかぬかも

筑波山つづはなに登のぼりて月つきを詠よむ一首

一七二二番

天あまの原はら 雲くもなき夕よひに ぬばたまの 夜渡よわたる月つきの
入いらまく惜をしも